

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【県リーグ(KSL-1)】

第8節

vs フットワーククラブ 1-3

第9節

vs 南FC 3-2

【高円宮杯全日本ユース(U-15)県大会】

vs ヴェルディ相模原 0-11

小6

【国際チビッ子】

vs 東汲沢 SC 2-1

Papas O-40

【市シニアマスターズ】

vs 神工 OB 7-1

今、グラウンドでは・・・

Top

【1部残留へ残り2試合】

終盤を迎えている県リーグ。9月30日の第9節南FC戦でようやく2勝目をあげて、現在勝点8の10位。相変わらず崖っぷちランキングからは抜け出せない状況です。残留確定の条件は9位以上。現在(9/30時点)9位との勝点差は1、8位との勝点差は2で両チームとも残り試合は1。これに対し、かながわクラブは残り2試合。自力で残留を決められるチャンスがあるだけに残り2試合へ向け、選手たちのモチベーションは非常に高まっています。また、第8節からは、GK柳川選手とかながわクラブユース出身のMF津久井選手の2名が新加入し、活躍しています。ここに来てチームの状態も上向いているので、一気に残留を決めたいところです。

最後に、いつもグラウンドまで Top チームの応援に来ていただいているクラブ関係者の皆さま本当にありがとうございます。なかなか良い結果が出ないにもかかわらず、辛抱強く応援していただけることは選手たちにとって非常に心強く、ありがたいものです。引き続き Top チームへのご支援・ご声援よろしくお願いたします。

(二木 昭)

Youth

【ガソリンがなければ走れません】

高校サッカー部に比べ、日頃の活動回数はどうしても少なくなり、フィジカルだけのトレーニングの時間を全体練習の中でとることがなかなかできません。個々の日頃のトレーニングに依存しているのが実情です。

だからでしょうか？この夏はあまりにも走り負ける場面が多く見られました。その部分を是正

すべく、9月はかなりハードなメニューを取り入れ、少しは走れるようになったはずでした。

にもかかわらず練習試合ではあまりその成果がみられません。おかしいと思って数人に確認してみると、食事のとり方に問題があることがわかってきました。

選手たちには日頃からたんぱく質を多めに取ることを伝えてきていましたが、動くために即エネルギーとなる炭水化物のとり方が理解されていませんでした。

3時間前のおにぎり、1時間前のバナナ、30分前のサプリメント。それを意識しただけで見違えるように動けるようになりました。

とかく軽視されがちな食事ですが、身体が作られる中学校の今の時期こそ、本当に大切です。ジャンクフードは一切排除し、バランスのよい食事をとることを心がけてほしいものです。

「食事」「睡眠」「トレーニング」が効率よく行えはじめて「戦える身体」ができあがります。自分の身体に対する意識をもっと高めていきましょう。(内田 佳彦)

Junior Youth

今月は趣向を変え、JY 選手たちの写真を紹介したいと思います。(二木 昭)

(左上)甲府遠征での1コマ。みんなでお弁当を食べています。

(右上)プレー中に髪が邪魔そうだったので、ヘアバンドをプレゼントされた鹿島貴希くん。以来、みんなからは縄文人と呼ばれています。

(左下)雷で試合が中断している間に、傘をマイク代わりにみんなの前で熱唱し始めた原亮平くん。歌っているのは、「ムーディー」。

(右下)Off the pitch での主役2人。On the pitch



でも活躍して欲しいところですが...

小6

【国際チビッ子が始まりました】

国際チビッ子が始まりました。初日は雨の中、

メンバー全員が参加できました。大雨の中、とてもサッカーをやるグラウンド状況ではありませんでしたが、全員が一つになり勝利をものにすることが出来ました。見に来て頂いた保護者の方の中では、勝ったけど、いつものサッカーと違う？と思われた方がいらしたかもしれません。しかし、これは子供たちの順応性の高さもたらした勝利だと考えてください。試合前に私が雨の状況、蹴り方、蹴るコースなどを提案しただけで、子供たちが順応しました。また試合中細かいパスを試みるも、ボールが(水溜り)で止まり相手に取られてしまうことを知り、次のプレーから自分で大きくスペースに出して見たり、インサイドシュートだと止まってしまうからトゥーキックでシュートをして見たり等等、普段の積み重ねで養われる考える力、状況に応じて対応する力が発揮された試合だと思いました。そして大雨の中での大きな声援、試合後の選手たちの待機、テント撤収等色々ご協力頂いた保護者の皆さま、本当にありがとうございました。引き続きご声援ご協力宜しくお願い致します。

【次戦からは】

先月にも書いた課題を意識して臨んで欲しいと思います。

・裏をとる動き

・オーバーラップ

・マークの原則・意識

今までの様に「内容だけで」はなく、「結果(勝利)」も大きく意識して是非みんなで決勝Tに行きましょう!! (益子 伸孝)

小 5

最近5年生では、コーン当て・1対1のキープレフト・パスゲームなど基礎的な練習に練習の半分以上の時間を費やしています。正直言いますと僕自身も小学生のときは基礎的な練習はあまり好きではありませんでした。(多分子供たちも好きではないでしょう...)しかし、実際の試合では「足元にしっかり止める」・「狙った所にボールを蹴る」・「ボールをもらう前に周りを見る」など基礎がいかに試合で正確に出来るかがとても大切になってきます。特にカテゴリーが上がるごとにスピードが上がりプレッシャーがきつくなっていくので、その中でいかに正確なプレーが出来るかが勝負の分かれ目になってきます。5年生の何人かは国チビに出場します。試合に出るからにはかながわクラブの代表として自信を持って一生懸命プレーしてください。メンバーに入れなかった5年生もまだチャンスはあるので気持ちを入れて練習しましょう。

【練習試合の出場時間について】

最近練習試合では、選手の出場時間がそれ

それぞれによって違うのは皆さんお気づきでしょうか?私のほうで、日ごろの練習をみて「選手のやる気」・「勝ちたいと思う気持ち」・「日ごろの練習の成果」・「忘れ物」などを基準しております。子供たちには普段から伝えているのですが保護者の皆さまには報告が遅れてしまいました。なにかご不明な点がありましたら練習や試合があるときにでも声をかけてください。

【ゴールキーパーについて】

5年生だけに該当する話ではないので興味がある人は読んでみてください。私自身現役時代にゴールキーパーをやっていたので少しゴールキーパーの話します。

ゴールキーパーは一歩間違えると失点につながってしまうとても重要なポジションです。みんなが知っている日本代表の川口やドイツのカーンなども、責任感・集中力・自分にのしかかってくる重圧などフィールドプレーヤーにない厳しさが襲い掛かってきますが、その中にキーパーにしかない独特の楽しさがあります。これからゴールキーパーをやろうとしている人・やっている人キーパーはとても難しいポジションですが楽しんでやりましょう。どの学年でもわからないことや聞きたいことがあったら聞いてください。

(丸山 祐人)

小 4

【指導者の資質】

最近話題の多い相撲界では、時津風部屋において17歳の力士が稽古中に(?)死亡するという事件が起こりました。プロ・アマの違いこそあれ同じスポーツ界に身を置く者として非常に悲しく、そして暗い気持ちにさせられる出来事でした。師匠(親方)と弟子(力士)の関係は単なる指導者と選手の関係以上の絆で結ばれているはずとはいえ、本当に愛情をもって、「かわいが」ることの結果であっても、命を奪う権利は師匠にあるはずもないのです。

また、9月の一ヶ月間は毎週試合が組まれており、様々なチームと対戦をし、多くの指導者たちと接する機会を得ました。それぞれが個性的であり、情熱を持って指導に当たられていました。リーグ戦では、更に多くの指導者に出会うことができるでしょうから、吸収できるものがあれば...と期待しています。

今回はこうしたことを踏まえて、指導者といらものを改めて考えてみました。平成16年12月の発行されたJFAハンドブック「めざせベストサポーター」という小冊子のなかに次のような記述を見つけました。

「こんなクラブ、指導者に会っていますか?」というタイトルで、

クラブに関しては

01. クラブの指導理念がしっかりとしている
 02. クラブの指導方針をもっている
 03. クラブ運営の基本がプレイヤーズファースト(子どもを第一に考えること)である
 04. クラブ・保護者・選手との間でコミュニケーションがとれている
 05. 子どもたちが楽しくプレーできる場がある
 06. 指導者間での考え方が一致している
- また、

コーチに関しては

01. 子どもが好き
02. 情熱がある(研究熱心・向上心)
03. 明るくさわやか(言葉遣い・服装・礼儀正しい・あいさつ)
04. 忍耐力がある(指導には時間がかかる)
05. 子どもレベルに自分をコントロールできる
06. モラルがある
07. デモンストレーション(実際にやって見せること)ができる
08. オープンマインド(心を開いて人の意見を聞き入れられること)である

前半のクラブに関しては蛇足としても、後半のコーチに関しては身の引き締まる思いで一つ一つを確認しました。親御さんも是非こうした観点で担当のコーチ(指導者)チェックしてみたいかがでしょうか。

かながわクラブではコーチ(指導者)に指導ライセンス及び審判員の資格の取得を義務付けていますし、クラブ内の研修もあり、月一回のスタッフミーティングも欠かしません。また、ハンドブックにも載せてあるように指導理念、指導方針もしっかりと確立され、具体的な指導の方法も指導者間で切磋琢磨しながらやっているつもりです。しかしながらこれはあくまでも自分たちの評価ですから、会員の皆様、あるいはクラブ員及びそのご両親の皆様方から見てお気づきの点がありましたら、遠慮なくご指摘いただければと思います。

【リーグ戦に臨んで】

間もなく公式戦(秋のリーグ戦)が始まります。指導者としてどのようなスタンスでこれに臨むのかについてお話ししておきたいと思います。

JFAのテクニカルアドバイザーとして仏から招かれているクロード・デュソー氏が日本のユース年代の指導における課題として、育成コーチの重要性を説いています。更に「14歳までにしっかりとテクニックを身につけた国、結果よりも14・15歳までのクオリティーを身につけることの重要性を理解する国が、他よりもっと前に進むことができるでしょう。そして、それには、その前提として11・12歳でしっかりと基礎を身につけてい

なくてはなりません。」と述べています。

小学生の間には、チームとして勝つために有機的にプレーをすることを強いるよりも、もっともっと個人のテクニックを磨く必要があるということになるのでしょう。4年生のなかには、パスの意識に目覚めた選手も見られるようになってきました。それは非常に良いことだと思いますが、このリーグ戦に関してはもう少し個人のテクニックに拘ってやらせてみたいと思っています。観客席の大人たちをうならせるような、見事なパス交換からの得点シーンも見られるかもしれません。個人で勝負できることが前提にあってはじめてパスが生きてくるはずですよ。

そして何よりも拘りたいのが「相手のボールを奪うこと」です。9月の試合では毎試合このことを言い続けてきました。どんなに上手な選手でも、ボールがなければ何もできません。まずは相手のボールを奪うことから始めましょう。

最後に、親方が弟子の生命を奪うといった悲劇的な結末からはならぬ明るい兆しが見えてきませんが、日々の指導のなかで、子どもたちにサッカーへの意欲やスポーツへの関心を失わせることのないように、自らを戒めたいと思う次第です。(佐藤 敏明)

小 3

【反復練習はつまらない？】

8月から9月にかけて、さまざまなタイプのチームと練習試合をすることができ、子供たちにとっては良い経験になったのではないのでしょうか。今夏は記録的な猛暑ということもあり、フルコートで一日数試合をこなすにはなかなか厳しいものがありました。そのような悪条件の中でも子供たちは今できることを全力で出し切ってくれたと思います。

他チームとゲームを行なうと、今の自分たちには何ができて何が足りないのかが明らかになります。今回の一連のゲームでは、皆一様にはずむボールの処理に苦労していたようです。特にディフェンスの裏を狙ってスペースに大きく蹴られた時はボールの落下地点に入ることができず(最初から良いポジションが取れていないということもありますが)、簡単にキーパーと1対1の場面を作られて失点といったシーンが繰り返し見られました。「それ、ヘディングだあ」といったタイミングでも目をつぶって下を向いてしまいます。たまに、ボールが頭に当たったとしても飛んでいくのは真上か後方に。しまった、ヘディングを教えていなかった…。というのは冗談で骨格の成長を考慮して、今まではあえて練習を控えておりました。

これからは毎回のウォーミングアップの中で、

ボール扱いとともに必ずヘディングを含めた浮き球の処理を取り入れていこうと思っております。体格も良く骨格のしっかりした選手が大勢いるチームとゲームをする時は、ロングボールを処理する機会もたくさん出てくるでしょう。ヘディングは、身長差が顕著であればそこで勝負は決まってしまうと思われがちですが、ジャンプをする前のポジションのとり方やジャンプのタイミングさえ間違わなければ、かなりの確率で競り勝つことができると言われています。急に上達することはないので、まずは恐怖心を取り除くこと、そして次の段階で少しずつコツをつかんでいってもらえればと考えております。

【3年生のみんなへ】

技術を習得するためには、判断を必要としない反復練習にある程度時間をかけなければなりません。みんなが大好きなゲームと比べたら面白くないとは思いますが、後々のサッカー人生の財産になると信じて地道に取り組みましょう。もちろんクラブの練習がない日もたくさんボールに触りましょうね！(鈴木 章弘)

小 2

すっかり日差しが厳しい夏も終わり、秋らしい陽気になってきましたね。

先日頂き物のチケット片手に東京ドームへ、巨人×阪神を観に行きました。たまには違うスポーツでも見てみるか、という軽い気持ちで行ったのですが行ってビックリ！まず座席がバックネット裏！そしてJリーグとは違った雰囲気！東京ドームにも関わらずものすごい阪神ファン！かなり圧倒されました。たまには違うスポーツを見てみると、サッカーとは違った面白さ楽しさを感じる事が出来ると思います。私は帰りに霧囲気にならなくていいので、金本のユニホームを買ってしまいました…(苦笑)

さて話をサッカーに戻し、1、2年生には初めての公式戦、国際チビッツが始まります。

残念ながら予定していた30日の試合は雨で流れてしまいました。子供たちにとって公式戦はとても良い経験になると思います。いつもと違い、審判服を着た3人の審判団、決められた場所に設置されたベンチ、色々な面でいつもと少し違った雰囲気の中で子供たちは試合を行なっていくことになります。子供たちは日々成長しています。そこでもう一步成長してもらうために、試合ではこんな事をやって欲しいです。

取られたボールは取り返す。最後までボールを追いかける。めっちゃ蹴りな広い方にドリブル)。

これが出来れば最高です！一步成長です！

最後にお願ひです。保護者の皆様は、試合

会場には出来るだけ足を運び子供たちの応援よろしくお願ひします(応援の仕方だけはご注意を…)。有資格者のお父様方、お手数ですがご協力お願ひします。くれぐれも無断欠席のないようお願ひします。気温の変化が激しいので体調管理には気をつけてください。(鞍川 潤一)

幼児・小 1

【大事にしましょう!】

かながわクラブは、港北小の校庭および体育館をお借りできているおかげで1979年の創設以来長期にわたり活動を継続できています。

しかし、最近校庭はスプリングクレー周辺、石段の前の凸凹や小石が目立つようになってきました。クラブとして大掛かりなことは出来ないまでも、最低の安全確保も目的に利用後のブラシがけ、ごみ・石拾いを継続して行っています。特に後半に活動する高学年の皆は自らブラシがけを行う等グラウンドを大事に使う意識が高まって(いると信じて)います。

低学年の皆にも自然と「大事にする意識」を持ってもらえるよう引き続き活動の中で伝えていきたいと考えています。(もちろん大口台小、白幡小も一緒です)

また、保護者の皆さまにもこの機会に今一度ハンドブック内「利用上の注意」欄を読み返していただくと幸いです。

一方、もっと大事なはず(?)の個人の道具の忘れ物がなくなりません。もちろん、わざと置いていくことはないと思いますが忘れ物自体は仕方のないことと認識しています。(実は私もあまり大きな声では言えません。。。)

が、すぐに誰のものがわかるように全ての持ち物への記名を改めてお願ひします。また、ごみの持ち帰り併せて帰る際に再度確認するよう保護者の皆さまからもお願ひしてください。

ちなみに我が家には数百円から数万円はするであろう様々な忘れ物を預かっておりますが、狭い我が家ではそろそろスペースが怪しくなっております。。。

繰り返して誠に申し訳ございませんが、ご理解の程お願ひ致します。

【活動時間】

本年度は小1メンバーも国チビに参加することから、9月以降活動時間が不規則になっており、特に幼児・小1ご父兄の皆様にはご面倒をおかけし申し訳ございません。10月以降も変更があるかもしれませんが、都度できる限り迅速にご案内致します。諸事情ご理解の程お願ひ致します。(小野 津春)

Papas

【Rec & Comp の皆様へ】

RecとCampに参加されている皆さんへいくつかのお願いがあります。

一つは、試合参加の出欠確認の返信を期限内にしてくださいというお願いです。ご存じの通り、かながわクラブ **Papas** では、公式戦はもとより練習試合であっても(ゲーム形式の練習会を除いて)、事前に参加者の出欠をとっております。これは相手方に失礼のないよう試合が成立するかどうかを見極め、不足であればさらに出席者を募るなどの措置を講ずるためばかりでなく、相乗り車の手配や帯同審判の確認など大変重要なものであります。さらには、誰が試合に参加し誰が不参加になっているかという情報は、監督が作戦を考え、選手が試合をイメージしていく上でも重要な情報であり、いい試合をしていくための第一歩だと考えています。一方、集計作業は決して単純ではなく、スタッフにとりましても集計作業の時間を確保するのなかなか大変であります。そこで、皆さんにご協力をお願いします。全員が返信期限を守っていただくと、集計作業が早く進んで作業が楽になるばかりでなく、三日後の次の試合までに何をすべきかがいち早く全員に明確になります。どうか返信期限を守ってください。もし予定が立たないのであれば、その旨といつまでにはっきりできるかを返信してください。それを連絡していただくとそれだけでも全体がイメージでき大変助かります。

二つ目は、試合参加は義務です。試合参加者が11人ぎりぎりという状態が続いています。もとより休部者はい、手術明けの故障者はい、はじめから今年は仕事が忙しくて出席できないのが目に見えているから **RecとCamp** には参加しないと言っているにもかかわらず、茅野から強引に口説かれて参加している人もいます。その前に茅野の出席率はなんだという声も聞こえてきます(もちろん茅野は骨折明けですので悪しからず)。それでもあえて言わせてください、**RecとCamp** に参加するのは全くもって個人の自由ですが、いったんチームに参加すると試合に出席する義務が生ずるのだと。団体競技は選手の数が揃って初めて成立します。どうか試合日程は早め早めにお知らせしますので、日程が公表されたら仕事と家庭と両方を上手に調整していただき、万難を排して出席してください。

三つ目のお願いは、来年度以降のスタッフの募集です。現在は茅野、中山、浜野の3人では手が回らず、いつも心やさしくお手伝いして下さる M さんをはじめ、何人の方にお手伝いをいただいて三つのチームが運営できています。来年度からはこうした方をサブマネジャーという

ような形に位置付けられたいなと考えています。また、県シニアリーグからもそろそろかながわクラブからモリーグのスタッフを出すように求められています。どのチームもそうですが、リーグスタッフはチームスタッフ以外の方をお願いしております。年度末にかけて、こうしたスタッフのお願いをいたしますので、よろしくご検討をお願いします。

(茅野 英一)

Mistral

困ったことに、この季節は食べ物がウマイッ！冬眠する熊のようにバクバクと食べてしまう...

こんなんじゃないダメ！！私は熊じゃない人間だ！冬眠なんかしないの、だから蓄えなくてよいの！と言いつつ...よしっ!!ダイエットしよう。今まで隠し持っていた(?)お菓子を出し、「ママはダイエットをする協力してくれ」と息子と一緒に平らげた...サッ！夕食の買い物へ行く お腹いっぱいだと無駄なものを買わなくてすむからネ。よしよし！夕食のおかずは食欲の出ないものにしようと適当に選んで、さぁレジェ...ムムなんじゃこりゃ？新しいチョコか？なに～イ秋限定だと～限定と言われては今を逃したら一生食べられないかもしれない。こりゃ参った！悔いを残して死ぬのもイヤだ！どれどれ、味見してみるか...。(内田 良美)

ヨーガ

やっど涼しくなってきました。とたんに風邪をひく方が多いようです。気をつけたいですね。ヨーガでは、健康を保つために推奨していることがいくつかあります。そのひとつに「浄化法」があります。このところ私が実践しているのは、この浄化法のうちのネティーといわれるものです。ネティーとは気道の上部を浄化することを指し、具体的には鼻の中を水で洗います。ネティー用の容器に暖めた水(少量の塩を溶かしておく)を入れ、この水を右の鼻の穴から流し込み左の鼻の穴から出します。逆も行います。「え～!？」と思われるかもしれませんが、全然痛くありません。ネティーを行った後は鼻も喉もすっきりさわやか良い気持ち。

浄化法には様々なものがあり、バスティと呼ばれる腸の下部の浄化では、ガンガ(ガンジス川)に入り、その水をおしりの穴から吸い上げ(腹筋を使って吸い上げる)そして出すことにより、腸の中を洗うそうです。

鼻から入れた糸を口から出すのにも四苦八苦ししている私にはバスティができるようになるのには道のりが長そうです。(良い子は真似をしないでね)

今期のヨーガクラスでは、この浄化法も入れ

ながら進めてみたいと思っています。喉から肺にかけてのカパーラパーティというものです。ただしこれは、水も糸も使わない呼吸法の一つですのでご安心を。(伊藤 玲子)

理事長の^{たむごと}感言

今回の U-17 ワールドカップで韓国を訪ね、私の海外渡航暦はやっど 6 カ国になりました。

初めての海外旅行及び飛行機への搭乗は、1986 年のメキシコワールドカップでした。当時クラブのコーチをしてくれていた、今はPapasの五十嵐さんと二人、成田から JAL でロスへ。トランジット(っていう意味も当時はわかりませんでした)の間に、ヒカーナ航空のロビーで職員の小さな携帯TVの前に群がり、準々決勝のフランス×ブラジルを観戦していたのを憶えています。

今の M.プラティニ UEFA 会長率いるフランスの大ファンだった私たちは、ロスからメキシコシティへの空路、機内放送でフランスが PK 戦で勝ったことを聞いてはしゃいだものでした。

この時は「ブエノスタルデス(こんにちは)」、「名詞+ポ-ルファボール(～をお願いします)」、「クアンテ、エスト(これいくら?)」でした。「いくら?」と聞いても、返ってくるのがスペイン語なのでなんとやっているのかはさっぱりわからず、結局は地面に棒きれで数字を書いて交渉しました。タバコが「ドスミルペソズ(2000 ペソかな?)」だったのは確かです。トイレは「セルビシオ」、ビールは「セルベッサ」、オレンジジュースは「フーゴ・デ・ナランハ」だったような...?

次に訪れたのがニュージーランド。英国訛りの英語(いや、これが正統派の英語かも)に悩まされました。

タクシーにカメラを忘れたのですが、いい運転手さんで、わざわざホテルまで届けてくれました。フロントの女性に「君は運転手のベンガロンさんにありがとうって言わないといけなない」と言われ、しぶしぶ電話をすることに。

辞書を片手に一生懸命英作文をして電話をしたのですが、「君はカメラをベンガロンのクルマに忘れたんだね。すぐに連絡を取ってあげよう」みたいなことになってしまい、「ノーノー、オーレディ アイ ガット マイ キャンメラ」(いいからベンガロンさんにありがとう、って言ってくれ(って英語で言ったつもり))みたいな事をまくしたてたら通じました。「OK、ユーセイ、ミスターベンガロン、サンキュー フォー マイ キャンメラ」ですって(たぶん)。なるほど、中学の英語みたいに難しく考えることはないのかと思いました。

そういえば、メキシコで観光地のアカプルコに行ったら水上スキーをした時、インストラクターのおじさんが「Have you camera?」って言いまし

た。正しくは「Do you have a camera?」のほすね？(何にも考えず「Yes!」って言い出したが…)。そっか、要は通じればいいんですよ。

その後ハワイに行きました。でもここは日本でした。細かいには日本語で通しちゃいました。

1998年にはフランスのワールドカップに行きました。

ホテルや有名な観光地では英語(のような日本語)が通じましたが、それでもかなり苦労しました。ひたすら酒びりの日々を過ごしてしまっていたので、「アン・ヴァン・ブラン・シルヴブレ?(白ワイン一つお願いします)」はしょっちゅう使いました。名詞+ブリーズは「~シルヴブレ?」で頑なに通じました。たいてい一つか二つしか頼みませんでしたので、「アン(1)」「ドウ(2)」しか知りません。あとは気合です。それでもなんとか気高いフランス人と対等にやりあったと自負しています(何でどのくらいかは本人もわかっていません)。

空港に着いてすぐに乗ったタクシーでフランス国家の「ラ・マルセイエーズ」をフルコーラスでハミングしたら、運転手さんがとっても喜んでくれました。ドイツ対ユーゴを見た後のランスという町の食堂で、ビールを飲みながら、ドイツの若者と仲良くなって、一緒に歌を歌ったのが印象的でした。2002年の日本のワールドカップにおいて、と誘っても、日本へはあまりにも高すぎていかれないよ。と寂しそうに言っていました。

2006年はご存知のようにドイツのワールドカップに行かせて頂きました。

国民性なんでしょうか、日本にいるのと本当に違和感がありません。もちろん建築物など、目に入るものはまるっきり日本とは違うのですが、氣質が似ているのかな?それとも私自身に合っているのかな?とっても楽しんです。

言葉はさっぱりわかりません。はじめの二日間は友人と一緒にいてくれて通訳をしてくれましたが、そのあとはお得意の「なんとかしちやえ作戦」です。

ドイツは何だかんだいって英語が通じました。特にトルコ人が多く住んでいて、お互い母国語ではないもの同士が英語でしゃべるのって結構通じたりするもので、「ピアー」なんて言わなくても、「ビール」で通じたのも楽でした。なのでトルコ人のケバブという料理はしょっちゅう食べていました。

韓国は、実は行く前は少し偏見がありました。それは歴史から来るもので、「なぜ彼らはいつまでも日本の過去を問題視しているのだろう?」といったことから始まる、一種のアレルギーのようなものでした。なので行く前はかなり構えてい

ました。でも、行って180度考え方が変わりました。彼らもやはり、たぶん、日本に構えていたのでしょう。でも、行って、町を見て、直接その人たちと関わってみると、実はそんなことなどあまり気にしていないように感じました。もちろんこれは微妙な問題でもありますから、私個人が感じたレベルで解決すべきことではないのかも知れません。でも、韓国はいい国だと感じて帰ってくるのができたのは、私にとっては大きな収穫です。

滞在中はずっと呉君という韓国人の学生さんがお世話をしてくれたことと、あらゆるところで日本語が通じることもあり、ほとんど現地の言葉を話さずに済んでしまいました。

「カス(ビールの銘柄)・ハナ・チュセヨ」といって「CASSというビールを一つお願いします」をたまたま使いました。韓国では名詞+チュセヨで~ブリーズのようです。数量は「ハナ(1)」しか知りません。

海外は一人でほっぽり出されるような格好で行ったほうが、大変かもしれないけれどやっぱり楽しめると思います。

言葉は少しはできたほうがいいですが、人間には他の意思伝達方法があると思います。

高校生や学生の皆さん、ぜひ積極的に海外に出かけて見聞を広めてください。

サッカー先進国のサッカーに触れるのもいいでしょうし、ワールドカップでも開催されれば一生訪れることのない国に行くのもいいと思います。そこでたくさんの苦労をして、たくさんのごことを感じ取ってきてください。

一人の世界に閉じこもらず、積極的に多くの人に関わってみてください。

絶対に皆さんの世界が広がりますよ。

私はお酒が好きなので、現地で酒を飲むのにどのように頼んだらいいのかを調べました。そこから始まり、今は一生懸命「英語漬け」をやっている毎日です。(内田 佳彦)